

1. 連結経営成績に関する定性的情報

(1) 平成22年3月期 第1四半期の主要施策

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界経済が停滞局面に入中、企業業績の不振や雇用環境の悪化、個人消費の低迷など、依然として厳しい状況が続いております。このような状況の中、当社グループはエンドユーザーの価値を徹底的に追求し、当社の強みであるデジタル技術の活用や他社とのアライアンス等を通じ、新しい価値の創造、新しい市場の開拓に取り組んでまいりました。また当期は、以下の4項目を重点目標に掲げ、業績の回復に努めております。

①国内事業の復活

商品の質と量を揃え、選択と集中による効率化を図ることにより、国内事業の早期回復に努めております。当第1四半期連結累計期間においては、女兒向け新キャラクター「ジュエルペット」シリーズを4月からテレビアニメ放映に合わせて拡大展開しております。当社の定番商品である「それいけ！アンパンマン」シリーズについては堅調に推移しております。発売5年目を迎える「ホームスター」については、天文年キャンペーンを実施し、さらに新規顧客開拓として女性向け、ファミリー向けの新製品を発売したことで好調に推移しております。

②グローバル事業の拡大

男児キャラクター「爆丸」の海外拡大展開を推進するとともに、「爆丸」に次ぐ新たなグローバルコンテンツの開発にも取り組んでおります。当第1四半期連結累計期間においては、「爆丸」のテレビアニメ番組の放映地域が前年にはアジア中心でありましたが今期はアメリカ、ヨーロッパと拡大しており、これに伴い玩具の販売も引き続き好調に推移しております。また、アメリカにおいては「爆丸2」の展開がスタートしております。

③子会社の再構築

グループ経営の効率化を図るため、子会社である株式会社タイヨーの事業再構築、SEGA TOYS (HK) CO., LTD.の機能強化、機能子会社の見直しを行っております。当第1四半期連結累計期間においては、子会社である株式会社レムアートの清算を計画し、11月に結了予定としております。

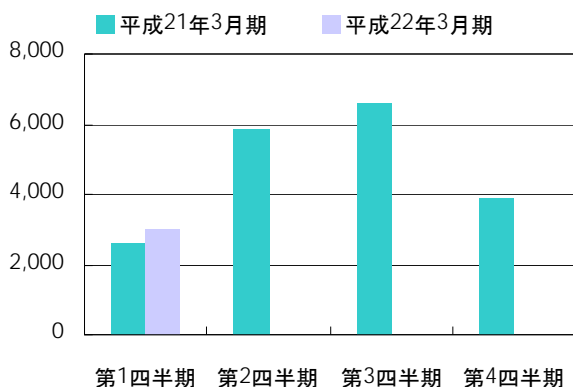
④組織機能の改革

前期より導入した「執行役員制」により、責任権限を委譲し意思決定のスピードアップに取り組んでおります。また、企画・マーケティング機能の改革に着手し商品力の強化を図る一方、開発から生産に関わる専任部署を設置することでコスト低減・納期短縮・品質確保に取り組んでおります。さらに、国内販売体制の見直しによる国内販売計画および“生・販・在”管理の精度向上、社内管理体制の強化にも取り組んでおります。

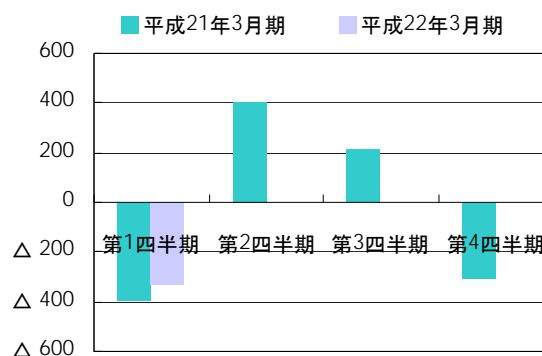
(2) 当社グループの通期及び四半期業績の特性について

玩具業界においてはクリスマスおよび年始商戦が最大の商戦期であることにより、売上高については第3四半期が最も多く、第1・第4四半期が相対的に少なくなる傾向があります。また、営業利益については第1・第4四半期の売上高の絶対額が少ないと営業損失となり、第3四半期はその年の在庫処理費用を多く計上すると、売上高の伸びと同じ率では増加しない傾向があります。

【連結売上高の四半期推移】 (単位:百万円)

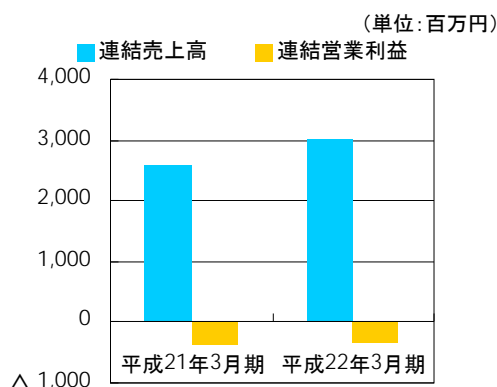


【連結営業利益の四半期推移】 (単位:百万円)



(3) 前年同期との対比による3ヶ月累計連結業績

当第1四半期連結累計期間における連結業績は、売上高3,025百万円(前年同期は2,606百万円)、営業損失335百万円(前年同期は営業損失395百万円)、経常損失345百万円(前年同期は経常損失395百万円)、四半期純損失381百万円(前年同期は四半期純損失399百万円)となりました。



【カテゴリー別連結売上高、連結営業利益】

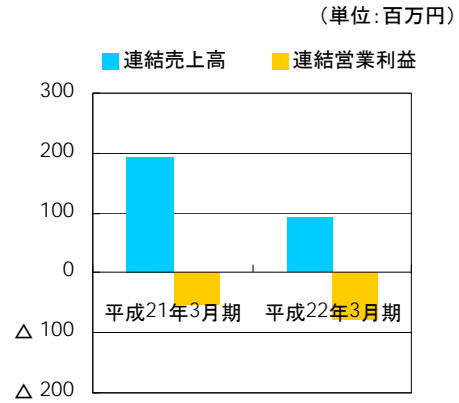
(単位:百万円)

		平成21年3月期 第1四半期 累計期間	平成22年3月期 第1四半期 累計期間	増減
エデュテイメント 関 連	連結売上高	193	92	△ 101
	連結営業利益	△ 52	△ 76	△ 24
ファミリーエンター テイメント関 連	連結売上高	456	266	△ 190
	連結営業利益	△ 113	△ 139	△ 26
NEW コンテンツ ビジネス関 連	連結売上高	1,592	2,440	848
	連結営業利益	△ 98	△ 12	86
ホ ビ ー 関 連 ・ そ の 他	連結売上高	364	226	△ 138
	連結営業利益	△ 131	△ 107	24
合 計	連結売上高	2,606	3,025	419
	連結営業利益	△ 395	△ 335	60

■エデュテイメント関連

連結売上高は92百万円(前年同期は193百万円)、連結営業損失は76百万円(前年同期は営業損失52百万円)となりました。

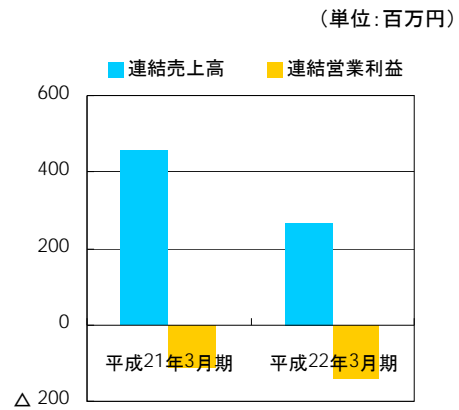
連結売上高においては「ビーナ」シリーズの売上高が70百万円(前年同期は97百万円)、他社向けOEM売上高が15百万円(前年同期は92百万円)と、それぞれ前年を下回る結果となりました。



■ファミリーエンターテイメント関連

連結売上高は266百万円(前年同期は456百万円)、連結営業損失は139百万円(前年同期は営業損失113百万円)となりました。

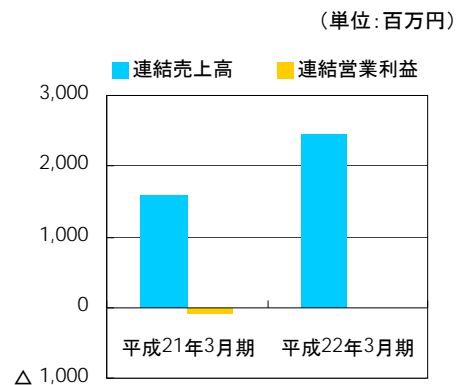
連結売上高においては「ホームスター」シリーズが新製品の投入により112百万円(前年同期は51百万円)と好調に推移したものの、前年発売の「カラダトレーナー」(前年同期は175百万円)に次ぐ新製品の発売がなく、前年を下回る結果となりました。



■NEWコンテンツビジネス関連

連結売上高は2,440百万円(前年同期は1,592百万円)、連結営業損失は12百万円(前年同期は営業損失98百万円)となりました。

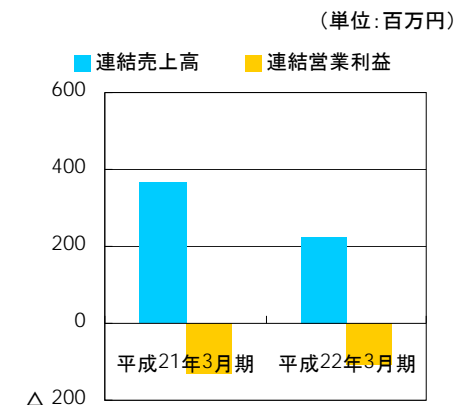
連結売上高においては新たに発売した女兒向け新キャラクター「ジュエルペット」の売上高が54百万円(前年同期なし)、アンパンマンシリーズの売上高が372百万円(前年同期は382百万円)と堅調に推移した他、海外「爆丸」の売上高が1,917百万円(前年同期は1,038百万円)と引き続き好調に推移しました。



■ホビー関連・その他

連結売上高は226百万円(前年同期は364百万円)、連結営業損失は107百万円(前年同期は営業損失131百万円)となりました。

連結売上高においては子会社タイヨーのラジオコントロール玩具の売上高が136百万円(前年同期は253百万円)と低調に推移しました。



【連結売上高、連結営業利益の国内・海外内訳】

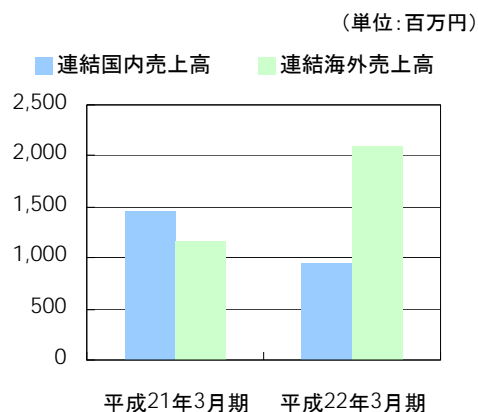
(単位:百万円)

		平成21年3月期 第1四半期 累計期間	平成22年3月期 第1四半期 累計期間	増減
国内	連結売上高	1,453	937	△ 516
	連結営業利益	△ 479	△ 373	106
海外	連結売上高	1,153	2,087	934
	連結営業利益	84	38	△ 46
合計	連結売上高	2,606	3,025	419
	連結営業利益	△ 395	△ 335	60

■ 連結売上高の国内・海外内訳

国内における連結売上高は937百万円(前年同期は1,453百万円)となり、前年を大きく下回りました。これは、前年発売した「カラダトレーナー」や「グランドピアニスト」などに代わる大人向け新製品の発売がなかったこと、子会社タイヨーの国内販売の不振によるものです。

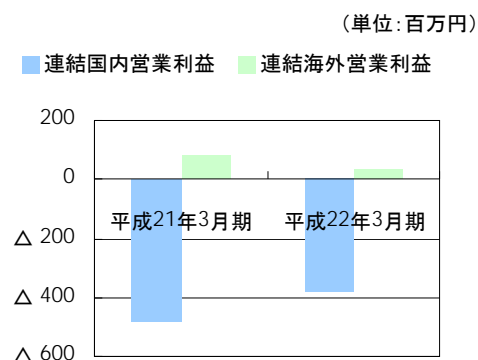
海外における連結売上は2,087百万円(前年同期は1,153百万円)と、前年を大幅に上回りました。これは、欧米市場において男児キャラクター玩具「爆丸」の販売が引き続き好調に推移したことによるものです。



■ 連結営業利益の国内・海外内訳

国内における連結営業損失は373百万円(前年同期は営業損失479百万円)となりました。連結売上高の減少により売上総利益が減少したものの、選択と集中による販売費及び一般管理費の効率化を推進したことにより、営業損失は前年より改善いたしました。

海外における連結営業利益は38百万円(前年同期は84百万円)となりました。これは、「爆丸」が売上高では前年を大幅に上回りましたが、今後の展開に向けた事業拡大および販売費及び一般管理費の増加により、連結営業利益が減少いたしました。



以上